

函南町子どもの読書活動推進計画

平成21年 3月

函南町教育委員会

はじめに

近年、様々な情報メディアの発達・普及、家庭生活や価値観の多様化などにより、子どもたちを取り巻く環境や習慣は大きく変化し、子どもの読書離れ、活字離れが進むとともに、人と人とのふれあいやコミュニケーションの機会が、徐々に減ってきています。会話や読書活動は、子どもたちが健やかに成長するうえで、極めて重要であり、その減少は、子どもたちの表現力や想像力に影響を及ぼすだけでなく、自制心や自律心の低下、短絡的な思考などが指摘されています。

読書活動は、生涯にわたって学び、身につけていくべき教養・価値観・感性など、人間的活動の基礎となり、理解力や表現力など人間にとっての社会活動の基礎となる力を効果的に高めることができるものです。また、人生をより深く、より生き生きと生きるための力を育てる大切な手段です。

このことから、家庭、地域、学校においては、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めたり、生涯にわたる読書習慣を身につけるようにするための環境づくりが大切です。子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけを作り、子どもが興味を持ち、感動する本などを身近に整えること、また、子どもが読書に親しむ機会の充実を図ることはもとより、子どもの読書活動に携わる家庭、地域、学校が連携し、相互に協力を図りつつ社会全体での取り組みを推進していくことが重要です。

函南町で進める「子どもの読書活動推進計画」が子どもたちの健やかな成長に資することができればと願います。

最後に、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました「函南町子ども読書活動推進計画策定会議」の委員の皆様にご心から感謝申し上げます。また、読書活動に関するアンケート調査にご協力いただいた児童・生徒及び保護者の皆様にご深くお礼申し上げますとともに、多くの町民の皆様にご理解、ご協力をお願い申し上げます。

平成21年 3 月

函南町教育委員会
教育長 鈴木 忠

目次

第1章 計画の基本方針

1	策定の目的	1
2	国の動向	1
3	県の動向	1
4	計画の目標	1
5	計画の対象	1
6	計画の期間	1

第2章 子どもの読書活動の現状と推進のための取り組み

1	家庭における現状と取り組み	2
2	保育園・幼稚園における現状と取り組み	2
	(1) 保育園	2
	(2) 幼稚園	3
3	学校における現状と取り組み	4
	(1) 小学校	4
	(2) 中学校	5
4	地域における現状と取り組み	6
	(1) 函南町中央公民館図書室	6
	(2) 函南町西部コミュニティセンター・函南町農村環境改善センター	6
	(3) 函南町保健福祉センター	7
5	広報活動などの現状と取り組み	7
	(1) 情報提供	7
	(2) 読書週間と子ども読書の日における広報活動	7
6	取り組みの実施に向けて	7

努力目標 (数値目標)	8
--------------------	---

参考資料

子どもの読書活動の推進に関する法律	9
子どもの読書活動に関するアンケート調査結果	12
函南町子ども読書活動推進計画策定会議委員名簿	18

【第1章】 計画の基本方針

1. 策定の目的

今日、テレビ・ゲーム・インターネット・携帯電話などの様々な情報メディアの発達・普及により、子どもの生活環境が大きく変化し、子どもの読書離れが指摘されています。

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで、欠くことができないものです。また、変化し続けるこれからの社会の中では、自ら学び、自ら考え、主体的に判断する力や他人を思いやる心が必要です。子どもの頃からの読書習慣の確立は、これらの力をはぐくんでいく有効な手段の一つと考えられることから、子どもの読書活動の推進を目的として策定します。

2. 国の動向

平成13年12月に、子どもの読書に関する基本的理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明らかにした「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)が公布、施行されました。この法律に基づき、平成14年8月に、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画である「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、施策の基本的な方向と具体的な方策が明らかにされました。

3. 県の動向

「子どもの読書活動の推進に関する法律」や「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ、平成16年1月に、「静岡県子ども読書活動推進計画一『読書県しずおか』をめざして一」が策定されました。平成20年2月、中間年度にあたることから、現状・課題を再分析するとともに、施策の方向や努力目標(数値目標)について見直し、「静岡県子ども読書活動推進計画一『読書県しずおか』をめざして一(後期計画平成20～22年度)」が策定され、県下の子どもたちの読書活動を支え、推進するための施策や推進体制のあり方などについての方向性が示されました。

4. 計画の目標

この計画は、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」や「静岡県子ども読書活動推進計画」を基本とし策定するものです。これらを踏まえ、町の子どもの読書活動の現状を把握し、家庭・学校・地域それぞれに応じた取り組みを示し、読書活動の推進を目指します。

5. 計画の対象

対象は、0歳からおおむね18歳までとします。

6. 計画の期間

この計画は、平成21年度から平成25年度までの5年間とします。

【第2章】 子どもの読書活動の現状と推進のための取り組み

1. 家庭における現状と取り組み

＜現状＞

- ・ テレビ・ゲームなどの映像メディア、インターネット・携帯電話などの情報端末の著しい普及に加え、核家族化や共働き家庭の増加、塾や習い事、子ども会やスポーツ少年団などに関わる時間の増加などによる子どもの生活環境の変化によって、読書離れが生じ、読書を通じた親子の時間を取るのが難しくなっています。

＜取り組み＞

- ・ 函南町中央公民館や函南町保健福祉センターなどの講座や健康相談、保育園・幼稚園・学校の保護者会やPTA・留守家庭児童保育所などを通じて、家庭での読書や読み聞かせについての重要性を理解してもらい、読書活動の推進に努めます。
- ・ 函南町中央公民館図書室と連携し、保護者などに対し、本の紹介や「ファミリー読書教室」への参加、函南町中央公民館図書室の利用を呼びかけます。

2. 保育園・幼稚園における現状と取り組み

(1) 保育園

＜現状＞

- ・ 各クラスに本棚があり、自由遊びの時に自由に本を選び、保育士に読んでもらったり、自分で読んだりしています。
- ・ 1日2回以上読み聞かせを行っています。
- ・ 1・2歳児は、月刊絵本を利用し、身の回りの生活や環境への興味を引き出し、意欲的に取り組むきっかけにしています。
- ・ 3～5歳児は、個人用の教材として月刊絵本を購入し、絵本をクラス全員で見たり、友達同士で見たりして十分に活用した後は、家に持ち帰り、家庭でも一緒に読むことで、親子のコミュニケーションに役立てています。
- ・ 貸出図書を開設しています。
- ・ 「おたより」を発行し、絵本の紹介や読み聞かせの大切さを伝えています。
- ・ アンケートの結果では、「本を読むこと、または読み聞かせは好きですか？」では、「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせると9割を超え、「本を読むこと、または読み聞かせをすることは大切だと思いかすか？」でも、「思う」が9割を超えています。「本を読むこと、または読み聞かせの時間は1日どれくらいですか？」では、「30分未満」が7割を超え、「本を読むこと、または読み聞かせの数は1か月に何冊ですか？」では、「1～2冊」が3割を超え1番多く、「本が読めなかったり、読み聞かせができなかったりする理由はなんですか？」では、「親が仕事や家事などで忙しい」が8割を超えていることから、時間を取るのが難しいことがうかがえますが、1か月に10冊以上を読んでいる園児もいます。「も

っと本を読ませたい、または読み聞かせたいと思いますか？」では、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせると9割を超えています。「本をどのように手に入れますか？」では、「買う」が約6割で1番多く、また、「保育園から1か月に何冊借りますか？」では、「0冊」が7割を超え、「中央公民館図書室から1か月に何冊借りますか？」でも「0冊」が8割を超えていることから、やはり仕事が忙しいことが原因の1つと思われます。

<取り組み>

- 各保育室や貸出用の絵本の充実を図ります。
- 「おたより」などにより、情報提供と保護者に読み聞かせの大切さを伝え、親子で楽しみながら読むことの奨励に努めます。
- 保育士の能力向上のため研修を行います。
- 個人用の教材として購入している月刊絵本など、子どもが興味を持つことのできるように絵本の扱い方を工夫します。
- 園庭開放利用者や子育て支援センター利用者への読み聞かせを充実させ、乳幼児期からの絵本を通した親子のふれあいの大切さを伝えていきます。

(2) 幼稚園

<現状>

- 保育活動の導入（きっかけ作り）や帰宅前に心を落ち着かせるために絵本を利用しています。
- 保護者に読み聞かせボランティアを募り、帰宅前などに読み聞かせを実施しています。
- 季節や行事に関連した絵本を読み聞かせることにより、周りの環境に目を向けることや、日本古来の伝統や行事などに興味を持たせています。
- 4歳児と5歳児は、毎週金曜日に絵本の貸出を行い、親子のふれあいや読み聞かせの大切さを伝えていきます。
- 毎月個人用の教材として月刊絵本を購入することで、全員で同じ本を見て、考えたり遊んだり、生活習慣などを身につけさせたりしています。
- 親子で読むことを奨励していますが、親子で楽しむ家庭と無関心な家庭との差がみられます。
- アンケートの結果では、「本を読むこと、または読み聞かせは好きですか？」では、「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせると9割を超え、「本を読むこと、または読み聞かせをすることは大切だと思いかすか？」でも「思う」が9割を超えています。「本を読むこと、または読み聞かせの時間は1日どれくらいですか？」では、「30分未満」が7割を超え、「本が読めなかったり、読み聞かせができなかったりする理由はなんですか？」では、「親が仕事や家事などで忙しい」が6割を超えていることから、時間を取ることが難しいことがうかがえますが、1か月に10冊以上を読んでいる園児が3割います。「もっと本を読ませたい、または読み聞かせたいと思いますか？」では、「思う」と「どちらかといえば思う」

を合わせると9割を超えています。「本をどのように手に入れますか？」では、「中央公民館図書室で借りる」が約3割で1番多く、また、「幼稚園から1か月に何冊借りますか？」では、「3～5冊」が5割を超え、「中央公民館図書室から1か月に何冊借りますか？」では、「0冊」が6割を超えています。

<取り組み>

- 貸出絵本の充実を図ります。
- 「おたより」などでの情報提供と保護者に読み聞かせの大切さや親子で楽しみながら読むことの奨励に努めます。
- 絵本の読み聞かせ後の子どもの心へのアプローチの仕方など、教職員の能力向上のため研修を行います。
- 個人用の教材として購入している月刊絵本など、子どもが興味を持つことのできるように絵本の扱い方を工夫します。

3. 学校における現状と取り組み

(1) 小学校

<現状>

- 週に数回、朝読書を行っています。
- 週1回、読み聞かせボランティア（保護者や地域の方）や教職員による、朝の読み聞かせを行っています。
- 各学級単位で、図書室の利用についての基本的なルールやマナーを伝えるオリエンテーションを行っています。
- 図書委員会の児童が中心となり、昼休みの貸出・返却活動の他、学校独自に図書委員会が主催した活動で、子どもたち同士で読書の楽しさを伝え合っています。
- ほぼ月1回のペースで「図書館だより」を発行し、広報活動を行っています。
- 「学習情報センター」としての機能を存分に発揮できるように、図書などの購入に力を注いでいます。
- 学校司書が、全校配置ではなく兼務のため、勤務できない時間があります。
- アンケートの結果では、「本を読むことは好きですか？」では、「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせると8割を超え、「本を読むことは大切だと思いますか？」では、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせると9割を超えています。「1日に本を読む時間はどれくらいですか？」では、「30分未満」が4割を超え1番多く、「1か月に何冊本を読みますか？」では、「3～4冊」と「7冊以上」が約3割です。「もっと本を読みたいと思いますか？」では、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせると8割を超えています。「思うように読めなかったり、読まなかったりする理由はなんですか？」では、「勉強や習い事などで忙しい」が4割です。「本をどのようにして手に入れますか？」では、「学校で借りる」が約5割で1番多く、「学校から1か月に何冊本を借りますか？」では、「3～4冊」が約3割です。「中央公民館図書室から1か月に何冊本を借りますか？」では、「0冊」が6割を超えています。

<取り組み>

- ・ 校長の指導の下、職員会議などを通じて教職員全体の共通理解を図るとともに、司書教諭を中心とした教職員の協力体制の確立を促します。
- ・ 全校一斉の朝読書や読み聞かせをする環境をより充実させ、実施回数の増加に努めます。
- ・ 保護者などが読み聞かせボランティアとして、より多く協力してもらえるよう呼びかけていきます。
- ・ よりよい「学習情報センター」を目指すために、効果的また計画的に図書などの整備をし、学校図書館の充実を図ります。また、学校図書館図書標準の目標蔵書冊数を達成します。
- ・ 学校司書の全校配置を目指します。
- ・ 「図書館だより」などによる情報提供の充実に努めます。
- ・ 図書委員会がより活発に活動できるよう指導していきます。
- ・ 週末1冊読書の推進に努めます。

(2) 中学校

<現状>

- ・ 毎日朝読書を行っています。
- ・ 月1回、読み聞かせボランティア（保護者やサークルの方）や教職員による、朝の読み聞かせを行っています。
- ・ 新1年生を対象に図書室の利用についての基本的なルールやマナーを伝えるオリエンテーションを行っています。
- ・ 図書委員会の生徒が中心となり、昼休みの貸出・返却活動の他、生徒の自主性を生かした活動をしています。
- ・ ほぼ月1回のペースで「図書通信」を発行し、広報活動を行っています。
- ・ 「学習情報センター」としての機能を存分に発揮できるように、図書などの購入に力を注いでいます。
- ・ 学校司書が、全校配置ではなく兼務のため、勤務できない時間があります。
- ・ アンケートの結果では、「本を読むことは好きですか？」では、「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせると8割を超え、「本を読むことは大切だと思いますか？」では、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせると9割を超えています。「1日に本を読む時間はどれくらいですか？」では、「30分未満」が約5割で1番多く、「1か月に何冊本を読みますか？」では、「1～2冊」が約6割です。「もっと本を読みたいと思いますか？」では、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせると約7割です。「思うように読めなかったり、読まなかったりする理由はなんですか？」では、「勉強や習い事などで忙しい」が約3割で1番多く、「読みたい本がない」もほぼ同じくらいです。「本をどのようにして手に入れますか？」では、「買う」が6割を超え1番多く、「学校から1か月に何冊本を借りますか？」では、「0冊」が7割を超え、「中央公民館図書室から1か月に何冊本を借りますか？」でも「0冊」が8割を超えています。

<取り組み>

- 校長の指導の下、職員会議などを通じて教職員全体の共通理解を図るとともに、司書教諭を中心とした教職員の協力体制の確立を促します。
- 保護者などが読み聞かせボランティアとして、より多く協力してもらえるよう呼びかけていきます。
- よりよい「学習情報センター」を目指すために、効果的また計画的に図書などの整備をし、学校図書館の充実を図ります。
- 学校司書の全校配置を目指します。
- 「図書通信」などによる情報提供の充実に努めます。
- 図書委員会がより活発に活動できるよう指導していきます。
- 週末1冊読書の推進に努めます。

4. 地域における現状と取り組み

(1) 函南町中央公民館図書室

<現状>

- 特設コーナーを設置し、読み聞かせに活用できる本の紹介や、季節に合った本を置いています。
- 乳幼児の絵本は、触って楽しめるような仕掛け絵本を多く置いています。
- 月1回、「ファミリー読書教室」を開催し、読み聞かせを行っています。
- 隔月で、広報かなみに「図書室だより」を掲載し、情報提供を行っています。
- 子どもの利用者数が年々減少傾向にあります。
- 絵本や児童書は充実してきましたが、本を置くスペースが限られています。

<取り組み>

- 豊富で多様な図書などを効果的また計画的に整備をし、函南町中央公民館図書室の充実に努めます。
- 広報紙などを利用し、より充実した情報の提供に努めます。
- 読み聞かせ会の実施や「ファミリー読書教室」の実施回数の増加を検討します。
- 保育園・幼稚園・留守家庭児童保育所などを対象とした移動図書の実施を検討します。

(2) 函南町西部コミュニティセンター・函南町農村環境改善センター

<現状>

- 函南町西部コミュニティセンター・函南町農村環境改善センターに図書室が設置されていますが、図書の数が少ないのが現状です。

<取り組み>

- 函南町西部コミュニティセンター・函南町農村環境改善センター図書室の図書を充実させ、函南町中央公民館図書室から定期的な図書の入れ替えを行います。

(3) 函南町保健福祉センター

<現状>

- ・ 保健師が、乳児教室や7か月児健康相談の時に読み聞かせについての案内と本の紹介をしています。

<取り組み>

- ・ 函南町保健福祉センターでの健診や健康相談などの際に、函南町中央公民館図書室職員が出向いての読み聞かせや絵本の紹介・展示をします。
- ・ 函南町中央公民館図書室から受けたブックリストなどの情報を提供します。

5. 広報活動などの現状と取り組み

(1) 情報提供

<現状>

- ・ 函南町中央公民館図書室では、広報かなみに「図書室だより」を掲載し、読書活動に関する情報を提供しています。
- ・ 保育園・幼稚園では「おたより」、学校では「図書館だより」「図書通信」を発行し、保護者にも情報を発信しています。

<取り組み>

- ・ 情報は「広報かなみ」や保育園・幼稚園・学校それぞれの広報紙などを活用し、より充実した情報の提供に努めます。

(2) 読書週間と子ども読書の日における広報活動

<現状>

- ・ 函南町中央公民館図書室では、読書週間と子ども読書の日のお知らせを広報かなみの「図書室だより」に掲載、またしおりなどを配布し、広報活動に努めています。
- ・ 保育園・幼稚園・学校では、継続的に読書することを促しています。

<取り組み>

- ・ 読書週間と子ども読書の日に関する企画を実施し、情報は「広報かなみ」や保育園・幼稚園・学校それぞれの広報紙などを活用し、より充実した広報活動に努めます。

6. 取り組みの実施に向けて

本計画に掲げられた子どもの読書活動を推進するため、家庭・学校・地域・行政が相互に連携し、取り組みの実施に努めます。また、実施するために必要な予算措置、その他の措置を講ずるよう努めます。

努力目標 （数値目標）

目標項目	平成20年	平成25年
中央公民館図書室の児童図書蔵書冊数 （12歳以下の子ども1人あたり）	2.7冊 （平成19年度実績）	7冊以上
中央公民館図書室の児童図書の年間貸出冊数 （12歳以下の子ども1人あたり）	8.4冊 （平成19年度実績）	13冊以上
朝読書、読み聞かせ等全校で取り組む読書活動を実施している学校数の割合	小学校 100% 中学校 100% （平成19年度実績）	100%
1か月の目標読書冊数	小学生 4.5冊 中学生 2.3冊 （平成20年10月調査） ※1か月の平均読書冊数	小学生 8冊以上 中学生 3冊以上
本を読むことが好きだと答えた児童・生徒の割合	小学生 85% 中学生 85% （平成20年10月調査）	90%
図書標準を達成している学校数の割合	小学校 80% 中学校 100% （平成19年度実績）	100%
12学級以上の学校の司書教諭の軽減授業時数	小学校 — 中学校 —	3時間
いわゆる学校司書を配置している学校数の割合	小学校 40% 中学校 50% （平成19年度実績）	100%
「子ども読書の日」（4月23日）に読書啓発に取り組んだ学校数、公立図書館数の割合	小学校 100% 中学校 100% 公民館図書室 100% （平成19年度実績）	100%
秋の読書週間（10月27日～11月9日）に読書啓発に取り組んだ学校数、公立図書館数の割合	小学校 100% 中学校 100% 公民館図書室 100% （平成19年度実績）	100%